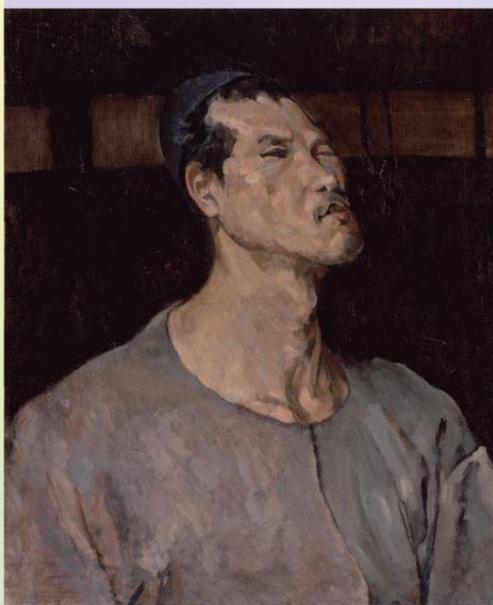


20th Anniversary Renewal Open: Hiroshima Masterpiece Selection Exhibit



左上:六角紫水《理想界の圓筒箱》1929(昭和4)年、漆・金・銀・蒔絵・螺鈿
左下:鏡光《僧子をかむる自画像》1943(昭和18)年、油彩・画布
右上:児玉希望《浅暮》1930(昭和5)年、絹本彩色
右下:圓輝勝三《月夜の嶺》1985(昭和60)年、木・銅板・彩色

リニューアル・オープン20周年記念 広島県立美術館所蔵作品展
必見!広島ゆかりの名品セレクション展

2016年4月19日(火)～7月10日(日)

開館時間: 9:00 - 17:00

※ 金曜日は20:00まで閉館 ※ 入館は閉館の30分前まで

※ 前期4/19～6/5、後期6/7～7/10

休館日: 月曜日

※ 特別展会期中・祝日・振替休日を除く

※ 徳川名宝展、東山魁夷展は月曜休館

入館料: 一般 510(410)円、大学生 310(250)円

高校生以下無料

縮景園との共通券: 一般 610円、大学生350円

※ ()内は20名以上の団体



- JR広島駅より約1km
- 広島城より約400m
- 市内電車(「八丁堀」で乗り換え)白島線で「縮景園前」下車20m
- ひろしまめいぶる〜ぶ(市内循環バス、JR広島駅新幹線口のりば発着)「県立美術館前」下車(白島線沿い)

【概要】

1968(昭和43)年に開館した広島県立美術館は、1996(平成8)年10月に現在の建物に生まれ変わり、今年度、リニューアルオープンから20年の節目を迎えます。

開館以来、多くの皆さまからご寄贈などのご協力を得て、現在のコレクション総数は約4,900点。とくに、収集重点方針として「広島県ゆかりの美術」「1920～30年代の美術」「日本及びアジアの工芸」を掲げたことにより、近代絵画とアジアの工芸作品が充実しています。

今年度の所蔵作品展は、コレクションの特色が際立つ企画をとり揃え、4期に分けて開催します。郷土の美術力が体感できる「必見! 広島ゆかりの名品セレクション展」を皮切りに、ご家族でのご来館が多い夏期には、子どもも大人も楽しめる参加型の企画と、心潤す風景画のセレクションを。また、新館が開館した秋期と、続く冬期には、ベストセレクション展を連続開催。当館の名品はもちろん、初お披露目する新収蔵品も見どころです。

企画内容にあわせて作家や作品の解説も見直し、装いも新たにスタートする今年度の所蔵作品展。何度でも見たい、と言っていただけの展示をめざし、職員一同、今後も努力を重ねていくことで、美術館を支えてくださる皆さま方への感謝の気持ちを表してまいります。

【見どころ】

彫刻

当館の彫刻コレクションは、ヘンリー・ムーアやジュリオ・ゴンザレス、アレクサンダー・コールドーといった欧米の作家や、圓鐔勝三、平櫛田中、芥川永など広島にゆかりのある作家の作品から構成されています。

広島ゆかりの作家を紹介する今回の展示では、広島県御調町(現在の尾道市)に生まれ、日本の近代彫刻を代表する一人である圓鐔勝三の作品をご紹介します。圓鐔は、木彫を中心としながらも、ブロンズや石膏、大理石など様々な素材を自在に用い、さらに木彫に異素材を取り入れるなど、木彫の可能性を大きく切り開きました。また、物語性をもつテーマは、多くの人に親しまれ、1988(昭和63)年には文化勲章を受章、翌年、広島県名誉県民となりました。1993(平成5)年郷里の御調町に圓鐔勝三彫刻美術館が開館、公共彫刻も数多く手掛け、JR東京駅のほか、広島駅や広島平和記念公園など当館の周辺にも多く設置されています。圓鐔作品の創造性豊かな世界をお楽しみください。



圓鐔勝三 《月夜の僧》
1985(昭和60)年、木・銅板・彩色

西洋美術

この展示室では、「1920～30年代(両大戦間期)の美術」という収集方針により収蔵している西洋の作家による作品を紹介します。

その中で、当館を代表する作品が、スペイン生まれの画家サルバドール・ダリの《ヴィーナスの夢》です。この作品は、1939年に開幕したニューヨーク万国博覧会の主催者が、シュルレアリスム(超現実主義:夢や欲望など「無意識」の表現を試みた芸術)の代表作家による娯楽施設を設置したいとの思いから、特別にダリに依頼して、制作されたものです。ダリ自身がデザインしたパビリオン「ヴィーナスの夢」に展示された、画業を代表する迫力ある大作です。

このほか、原爆死没者慰霊碑や平和大橋・西平和大橋をデザインした彫刻家イサム・ノグチや原爆で倒壊した建築物を描いた画家ベン・シャーン、第一次世界大戦に衝撃を受け、新時代のための版画を制作したマックス・エルンストなど、時代と向き合うことで生み出された、16名の作家たちの作品をご紹介します。



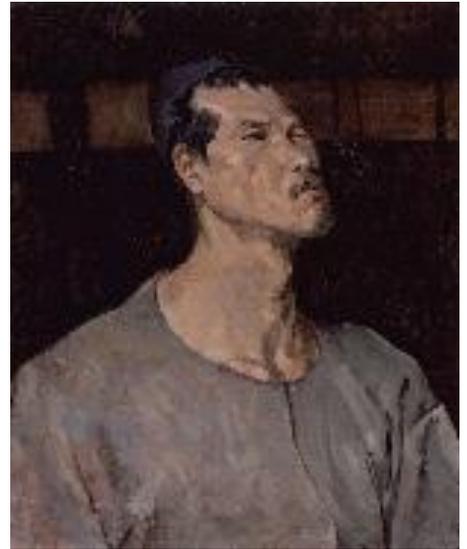
フランシス・ピカビア 《アンピトリテ》
1935年頃、油彩・画布

日本洋画

当館の日本洋画コレクションは、近・現代洋画史を俯瞰しつつ、重点方針である「広島県ゆかりの美術」と「1920～30年代の美術」に沿って収集した油彩画、水彩画、版画等を軸に構成されています。

2つの方針が交差する広島の近代洋画は、明治後期から終戦まで約半世紀に及びますが、作家のご遺族をはじめ多くの皆さまのご協力を得て次第に作品が充実。とくに、広島洋画壇の草創期、伸展期、成熟期の各期を代表する小林千古、南薫造、鬨光の3人は主要作がそろい、西欧に学びつつ日本独自の洋画をめざした、近代洋画の流れが常に紹介できるようになりました。さらに、作家の夫人が広島出身の縁で、近年、多数寄贈いただいた菅井汲の作品も常時展示し、戦後、国際的に活躍した画家の顕彰も図っています。

今期は、上記4人に、11人のゆかり作家を加え、広島洋画史を概観します。小林千古や南薫造の堅実で清新な表現、鬨光や山路商らの作品に見る日本洋画の成熟、さらには、戦後の力強い抽象表現など多彩な見どころにより、創造性と表現意欲に満ちた郷土美術の魅力を感じていただけることと思います。



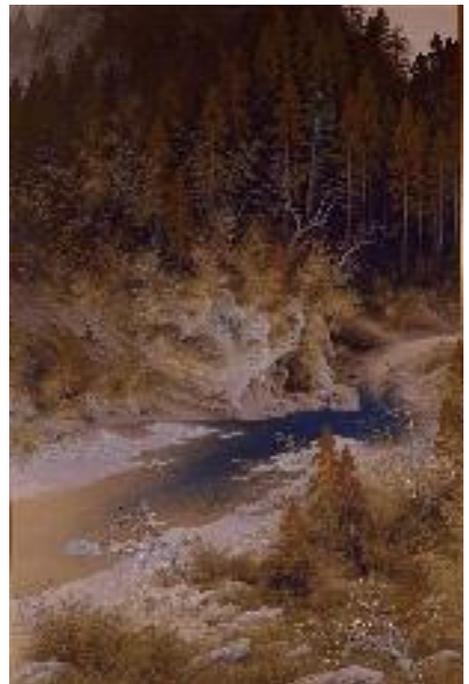
鬨光《帽子をかむる自画像》
1943 (昭和18)年、油彩・画布

日本画

今期は広島ゆかりの日本画より、江戸時代から昭和に至る幅広い作品をセレクトしました。児玉希望、奥田元宋、平山郁夫などを中心に、当館コレクションを代表する作品をご紹介します。

児玉希望は、風景画から仏教絵画まで、主題や表現技法も様々な作品を発表しています。初期の大作《浅春》には、早くも作家の並外れた画才が発揮されています。ついで奥田元宋は、風景をテーマとして大成し、文化勲章を受章しました。とりわけ《柳鷺》は、花鳥画の優品としても貴重な初期の作品です。同じく文化勲章を受賞した平山郁夫は、「仏教伝来」や「シルクロード」をテーマとする作品で知られます。一方、瀬戸内の自然・人々を描いた作品にも作家の特色がよく表われており、《内海の春》はそのひとつです。

日本画には、風景(山水)・人物・花鳥など様々な主題があります。しかし、その中でも、移ろう四季の表現が重要な役割を担っていることは見逃せません。展示作品から、春の景色が深まってゆく様子もぜひ感じ取ってみてください。



児玉希望《浅春》
1930(昭和5)年、絹本彩色

press release

リニューアル・オープン20周年記念 広島県立美術館所蔵作品展
必見!広島ゆかりの名品セレクション展

工芸

当館の工芸作品は、広島ゆかりの作品に加え、日本近現代の特色ある作品国際理解を促進するアジアの作品を主体に構成されています。今期は広島ゆかりの工芸作品を取り上げます。他の地域と同様に広島にも特有の歴史と資源に育まれた伝統的な工芸があります。一国斎高盛絵(江戸時代末から伝えられる特色ある漆の彩色レリーフ)のように現在まで引き継がれているものもあれば、宮島御砂焼(江戸時代末から縁起物として厳島神社神殿下の砂を混ぜて焼かれた陶器)のように一端途絶えながらも復興されたものもあります。

また近代以降は個性の尊重や教育機会の充実など社会情勢の変化に伴い、近代工芸に大きな足跡を残した巨匠である漆芸家の六角紫水や彫金家の清水南山を始めとして、地域や伝統の枠を超えて工芸を志す人々が現れるようになりました。今回の展示では、広島工芸の伝統に加えて一人一人の作家が自ら道を切り開き、新しい工芸文化を広島に芽吹かせて育て、或は全国的・国際的にも活躍するようになった様を御覧ください。



六角紫水 《理想界の図蒔絵手箱》
1929(昭和4)年、漆・金・銀・蒔絵・螺鈿

【関連イベント】

※都合により展示内容やイベント内容に変更が生じる場合があります。

友の会ボランティアガイド

当館友の会ボランティアガイドが所蔵作品展についてわかりやすく解説します。

日時:平日14:00~/土日祝11:00~、14:00~(1時間程度)

場所:2階展示室

参加料:無料

※要入館券(高校生以下無料)、申込不要

※ただし、6月4日、7月9日 14:00~の回は休み

リレートーク

当館学芸員が各室の見どころをリレー形式でご紹介する豪華なトークイベントです。

日時:5月20日(金)、6月24日(金) 各日11:00~

会場:2階展示室

講師:当館学芸員

※申込不要。入館券をお求めの上(高校生以下無料)、会場入り口付近でお待ちください。

【媒体掲載用の画像提供について】

※いかなる場合も本プレスリリースからの転用はご遠慮ください。

※都合により出品作品が異なる場合がございます。ご了承ください。

※画像については提供が可能です。ご掲載の際に画像がご入り用の場合は、当館までお問い合わせください。

※画像掲載の際には、画像とテキストが掲載されたレイアウト原稿を事前に当館までご提出いただき、1週間程度お時間を頂戴いたします。ご了承ください。

問い合わせ先

広島県立美術館

〒730-0014 広島市中区上幟町2-22

TEL.082-221-6246 FAX.082-223-1444

E-mail. ke.yamamoto@nomura-g.jp (山本宛)

担当 学芸課 藤崎 綾、山下 寿水

事業推進課 山本 恵子